

# 大震災の被災地 忘れない

思い支える。

福幸のつえ

## 中津の「竹馬会」

福島県からヒマワリの種を取り寄せて栽培している、中津市三光佐知地区の地域おこしグループ「竹馬会」（佐賀一彦会長・顔写真、70人）が、ヒマワリの



震災の被災地復興の願いを込め、「福幸のつえ」と名付けた。完成した30本を同地区の老人クラブに配布する予定。つえの使用者が被災地を思い出すことで、震災の風化を防ぐことを期待している。

の茎を材料にしたつえを作っている。東日本大



「福幸のつえ」を手に完成を喜ぶ竹馬会のメンバー＝中津市三光佐知地区

## 福島の産種で栽培 ヒマワリの茎活用

竹馬会はヒマワリを全国で育て、種を福島県に送る「福島ひまわり里親プロジェクト」に賛同。2011年から毎年、NPO法人「チームふくしま」から種を買い取り、地区の畑（約20㍏）で栽培を続けている。

これまで種を取った後は廃棄していた茎の部分を再利用しよう、プロジェクトを通じて交流を深めた福島県の市民グループからつえ作りのノウハウを教わった。

9日、メンバー15人が同地区の竹馬会集会所で作業をした。9月に刈り取った後、枝葉を切り落として乾燥させていた茎の強度を確認。紙やすりで表面を滑らかにした後、ニスを塗って仕上げた。

つえは長さ約120㍏、直径約3㍏。重さ約200㍏という軽さが特長。「今後も改良を重ねて製作を続けたい」と佐賀会長（57）。「福島のヒマワリで作ったつえを多くの人に使ってほしい」と話した。

（岡本英明）